



「笹川杯作文コンクール 2009」～中国語で応募～ 第3回優秀賞作品

※原文に忠実に和訳しました。

「金融危機と中日の環境デザイン業界」

北京市 孫辰成

庭園デザイン科の大学生である私は、専門分野を学んでいる中で、環境デザイナーには“空間の詩人”として社会の発展を促進する使命があるという話が気に入っている。こうした認識は、益々広まる環境汚染、高齢化社会に伴って現れたものである。安心、安全、そして最も合理的な居住環境を如何にして創造するのか？多様な自然観を実現するため、科学技術や現代的理念をどのように取り入れるのか？人々の生活感をどのように具現化するのか？これらは何れも深く考えさせられる問題である。これは日本の有名な環境デザイナー佐々木葉二氏の環境デザイン業界に対する認識である。現代の環境デザイン業は、まさに環境汚染、高齢化社会、自然災害の頻発といった状況下で見直され、危機の中で発展している。こうしたことから、今回の全世界を巻き込んだ金融危機は、環境デザイン業界にとって、真新しくも未知でもない。

金融危機がまずもたらしたのは資金の緊縮である。これにより新規事業の予算が減少し、着工済み工事の進展は緩慢になっている。設計会社の一部が破産に至り、業界内部では変革と統合が生じた。勿論、卒業生達の就職難という問題ももたらされている。

しかし、仮に金融の嵐が発生しなかったとしても、環境デザイン業界自体にも多くの危機は存在する。

中国と日本、この二つの東洋の国家には多くの類似した難題がある。まず、人口の増大と高齢化の問題で、限られた空間の中で如何に大衆により良い生活環境を提供するかということである。次に、中日両国は共に自然災害が多い国でもあり、如何に科学的、人間的に被災地の再建を行うのかということである。これらは共に目前に控える難題である。

さらに、環境汚染もある。戦後間もない日本では、経済復興のための一面的な発展により、工業が集中する地域において人体に直接の危害を及ぼす公害汚染があり、後に大量の資金と物資を費やして再び環境保護を行った。中国は現在これと似たような段階にあるが、都市化の進展過程で、日本の経験を学び取って回り道を短縮することはできないのだろうか。こうした面で、将来、両国の協力関係が発展する可能性は大きい。

グローバル化は一面では世界貿易を促進するのだが、他面では金融危機も助長する作用も果たしている。そんな中、“環境デザイン”は、建設の総合芸術として、やはりグローバル化の影響を避けることはできない。中国では環境デザイン、庭園の二語は混用されているが、日本では“造園”と呼ばれることが多い。明治維新から100年余の発展を経て、日本の庭園は国際的にも先端的な部類に入り、世界の庭園における東洋的体系の重要な存在となっている。それに比べ、中国の現代庭園の位置付けはずっと苦しい立場にある。一面では、古典的な庭園においては現代の環境デザインに対するニーズを満たすことができず、玉石混交の外国の設計理念が国内へ大量になだれ込んできている。しかし、別の面では、多くの庭園作品が華美を追求しすぎて伝統文化と決裂した結果、その風格を危うくしている。

日本の現代環境デザインが古典的な庭園からのモデルチェンジに成功したことは、中国にとって非常に良い啓発となっている。

日本の現代庭園は伝統を尊重することにより大胆な新機軸を打ち出したことで知られているが、日本の環境デザインを専攻する学生は、伝統の継承が依然として十分ではないと認識している。これに対して、中国の庭園教育では古典的なデザインが軽視されている。これは両国の教育理念の違いによるものではないかと思う。中国の古典的な庭園は広範で深遠であるので、これを把握するには長期に亘る苦難の習得と実践が必要である。しかし、時代は余りに性急過ぎて、誰もが最小限の時間で最大限の成果を得ることを望んでいる。私達は、より新しく科学的な造園技術を把握するのであるが、これは古典的な庭園の旧時代性を“批判”するというより、むしろ根気や伝統的な資料に対する習得と伝承が不足するということである。

金融危機は人々に経済の発展モデルを再考させ、持続可能な経済発展に最適のチャンスを与えてくれたが、これは伝統的な東洋庭園が尊重する自然と人との調和という哲学や芸術の理念と相容れるものである。では、この危機を一つのきっかけとして古典庭園設計の構想を見直せば、再び東洋の庭園芸術の全盛期を創出することが出来るのだろうか。東洋的庭園体系の継承と発展という観点から、これは中日両国の庭園関係者が逃れることの出来ない責任であり使命である。

金融危機が環境デザイン業にもたらした影響は多方面に及ぶ。一大学生として言えば、最も身近な危機は就職難であるが、それは一時的なものである。新時代の庭園関係者として言えば、私は、環境デザイン業界の将来に関して挑戦と希望に満ちたものであると感じている。金融危機を一度の災難と見なすよりも、必ず経験しなければならない陣痛だと思った方がよいのである。陣痛の後先に、私達は“空間の詩人”へと真に成長することが出来、伝統文化を継承しつつ現代生活の理念やニーズに適合した環境デザインを創出することが出来るのである。